

数学（ 数学 I ） 学 習 指 導 案					
日 時	平成 2 9 年 6 月 1 3 日（火）第 1 時限				
講 座	1 年 4 組	場 所	1 0 4 教 室	指 導 者	天羽 平
単 元	第 3 章 2 次関数		教科書	改訂版 高等学校 数学 I（数研出版）	
指 導 目 標	2 次関数とそのグラフについて理解し、2 次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。		指 導 計 画	第 2 節 2 次関数の値の変化 3 2 次関数の最大・最小・・・5 時間 4 2 次関数の決定・・・・・・・・6 時間 （本時はその 2 時間目）	
本時の主題	与えられた条件を満たす 2 次関数の決定				
前時の課題	教科書 p.90 を予習しておく。				
本時の目標	与えられた条件に応じて、適した式の形を使って、2 次関数が決定できることを理解させる。				
指 導 程 序	学 習 活 動		時間	指導上の留意点	評価規準・方法・資料等
	導入	前時の学習を確認する。	10	・前時の内容について、例題の平方完成を行い、標準形について確認させる。	
	展 開	1 例題 5 を考察する。 次の条件を満たす放物線をグラフにもつ 2 次関数を求めよ。 (1) 頂点が点 P(2, 5) で、点 A(-1, -4) を通る。 (2) 軸が直線 $x = -1$ で、2 点 A(0, -4)、B(1, 2) を通る。	15	・条件を満たすグラフを示し、解となる形を視覚的に捉えさせる。 ・2 次関数の標準形を用いて解くことを理解させる。 ・(1) と (2) の問題の違いに注意させる。	<b>【機器】</b> ・パソコン、プロジェクタ  <b>【評価規準】</b> ・与えられた条件を関数の式で表現できる。(数学的な技能) <b>【評価方法】</b> ・発表をさせ確認
	開 閉	2 類題の解法を考える。 放物線 $y = 2x^2 - 4x + 3$ を平行移動した曲線で、点 A(1, 5) を通り、頂点が直線 $y = 2x - 1$ 上にある放物線を求めよ。(グループ活動)	20	・グラフの平行移動や頂点の座標の取り方に注意させる。 ・協力して問題解決を図らせる。	<b>【評価規準】</b> ・条件を処理するのに適した式の形を使い、2 次関数を決定することができる。 (数学的な見方や考え方) <b>【評価方法】</b> ・机間指導によるグループでの活動状況とプリントの確認 ・発表をさせ確認
整 理	本時の学習内容をまとめ、次時の予告をする。		5	・本時の内容が理解できているか確認する。 ・次時の予告として、一般形を用いて解く例を紹介する。	
次時の課題	練習 20 を解いてくる。				
備 考	生徒数 4 0 名（男子 2 1 名、女子 1 9 名）				